

井戸端だより

第19号

発行日 1997.9.22

発行 ぐらしの学習会

// 例会報告 //

☆ほたる観察会・・・6月14日、今年で三度目となりました。

参加者の感想は？・・・P. 2

☆7月例会・・・7月14日、予定していた山ノ内自然観察会
が雨で中止。絵手紙教室を開きました。P. 3

// 紙面案内 //

☆今、重信の自然は？・・・見てある記・・・P. 6,7

☆新聞記事にみつけた身近に残る貴重な自然・・・P. 4,5

☆重信町のゴミ分別収集について・・・P. 8

☆会員の“こんなことしています”

朗読（音声訳）奉仕・・・P. 10

四国平成義塾に行ってきました。・・・P. 11

☆白形毅史／水彩画展・・・P. 11

☆今後の予定・・・P. 1.

// 今後の予定 //

☆9月29日（月）、午後7時～8時30分、“マヤ・アステカ
文明の地を旅して”スライドとお話しの会、

☆自然観察会 ◇野原で昆虫採集 ◇秋の皿が峰探訪

参加ご希望の方はお問い合わせを 南池宅

皆さま、夏休みはいかがでしたか？八月は例会もお休みでした。
今は運動会真っ盛り。学校に近く暮らして、一年間の行事が四季そ
れぞれに音と共に聞こえなかなか良いものです。秋は何か新しいこ
とを始める好機だと常々考えています。ガウデイいわく、「すべて
はもう創造されている。発見のみが我々の仕事である。」
さて、何を発見しましょうか。

ホタル自然観察会



日時：6月14日（土）午後5時半～
場所：柳原泉

隔年位の割合で、小野谷にホタルを見に行っていた我が家。町内でホタルが観察できると聞いて、行かないわけがない。まず柳原泉に集合。ホタルが見られるまで、まだ時間があるため、子供達は白形さんにススキの葉っぱを使って遊んで貰ったり、大人たちは雑談したり、……。

そのうち、三ヶ村泉にも寄ってみようということになった。のんびりとそぞろ歩きをしながら子供達の無邪気な会話に耳を傾けた。そう言えば、ここしばらく、このようにゆったりした気持ちで子供達に接していなかったことに気付き、少し反省した。道すがら、今まで知らなかった草や木の名前もいくつか教わったりした。

三ヶ村泉に到着。いつ来ても、ここは心が洗われる。子供達は喜んで泉の水に足を浸していた。ところが、鮮やかな緋色の魚が一匹泳いでおり、そのことをめぐって、自然保護の在り方について、白形さんからお話を伺った。池や泉に鯉などを放すと、その鯉と自然との価値が逆転してしまう恐れがあるとのこと。なるほどな、と思った。やはり、もともとそこに存在しなかったものを人為的に持ってくるのは考えものだ。

その後、柳原泉に戻る。いよいよホタルが見られるかと思うと、この年になってもワクワクする。いた、いた。しかも、直ぐ掴まえられて、手に取って観察できるのが良い。オスとメスの見分け方や、光り方のことなども教わり、興味深かった。これまでは、ただホタルの光の美しさのみ楽しんでいたが、そこに理科的な知識が少し加わるだけで、見方に幅ができる。ホタルには、人を、その魂の根源に帰するような力（少しオーバーかな）があるらしい。すっかり童心に帰り、時を忘れた。

また、夜行性の魚も見た。昼は、石の下に隠れており、夜になると出てきて、他の魚を食べるそうだ。こんな小さな泉の中にも、生きものの循環があり、一つの「自然」が形成されていることを改めて思った。

子供達も本当に楽しかったのだろう。その証拠に、その夜、家へ帰るなり、めずらしく机に向かっている。「今日のことを日記に書いとかなくちゃ。」と言いながら、ノートにびっしりと、観察会のことを書いているのだった。

(E. K)

以下、その抜粋です。

今日は、とても楽しかったです。それは、白形さんという人と一緒に、ホタルを5時半から8時半まで観察できたからです。白形さんは、とてもやさしかったです。ハッパをびゅっととばすあそびもおしえてくれました。きくちさんとも、なかよくなれてよかったです。ホタルを見たのは、柳原泉というところです。ホタルがとてもきれいでした。いっぱいとれましたが、しんじゅうと思ったのではなしてあげました。

来年も、また行きたいです。

私の絵手紙入門

7月の例会が、台風の為に変更になり会員宅で絵てがみ入門講座が開かれました。

絵ごころのある人となない人とは、スタート時点から完成作品に差がある事を恐れながらも、講師の指導の下、講座がはじまりました。

1枚目は、「一筆がきの要領で描きましょう。」と教わり、一気に“なすび”を仕上げました。墨と色と水の組み合わせと分量で、すずしげな色合いや、まさにナスビ色の“なすび”のできあがりです。自己評価をすると、練習用紙の上で描いた“なすび”は、のびのび育った出来栄えになりましたが、ハガキに描いた完成作品は、おどおどして見えました。何事でも、練習はうまくいくけれど、本番に弱い性格が絵てがみにも現れているなあと思いました。

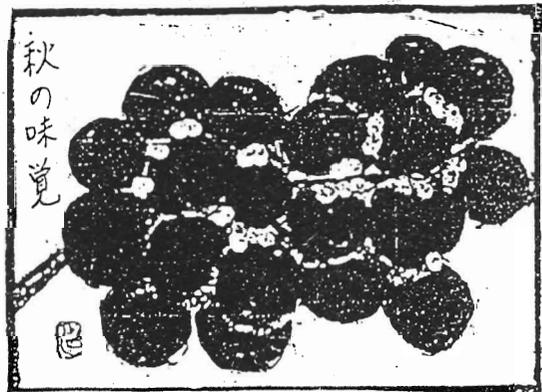
2枚目は、縁どりを描いてから色つけをする方法で、割り箸を使って縁をとり、“かぼちゃ”を描きました。

「ごつごつした感じをだすと味がでるから。」という助言で、つぎつぎに個性豊かな“かぼちゃ”のできあがりです。でこぼこが多くて、スーパーでは、売れ残りそうな“かぼちゃ”の方が元気があります。

初めての絵てがみ挑戦でしたが、2枚の完成作品をどうしようかと考えています。ナスビ色の“なすび”は、秋なすの時期まで待った方がよりおいしそうに見えるかもしれないとか、最近、運動不足と中年太りぎみの知人に“かぼちゃ”の絵は、失礼にならないかしらとか。

実力以上の絵が描けることを望まず、むしろ、個性満開の絵で、元気が届けられたら、私の絵てがみ入門は大成功です。

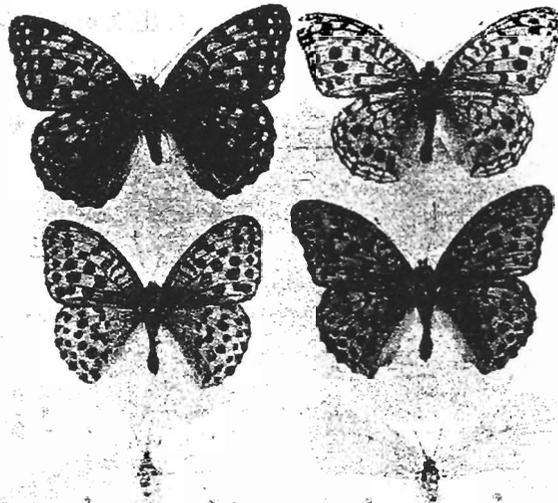
(M・T)



温泉郡重信町の皿ヶ嶺から風穴周辺にかけての二帯のチョウなど、とが、松山淡水ベントス研究所の桑田一男所長(左)の調査で分かる。昆虫類が、種類・生息数とも三十年前と比較して激減していること。

昆虫の宝庫開発でピンチ

重信・皿ヶ嶺から風穴周辺 チョウ種類 30年で半減



1950年代に皿ヶ嶺で見られたチョウ。
オオウラギンヒョウモン(右上)は、
いまでは絶滅した

松山の桑田さん調査

かつて昆虫の宝庫といわれる結果となった。かつて同地域の生物相激変。桑田さんは一九五〇年代は、道路建設などで環境破に毎年、七月から八月にかけて、チョウ類を中心に同ウを確かめていた。

地域周辺を綿密に調査。いまでは県内で絶滅したといわれるオオウラギンヒョウモンをはじめ、ミヤマカラスジシミやスジボソヤマキチョウなど十九種類のチョウ

このデータと比較するため、今年七月に入ってから三回、現地調査を実施。その結果、確認できたチョウは、わずか九種類に半減していた。また、今年確認できたアオスジアゲハやツマグクロヒョウモンなどは平野部でも見かける種類で、山間地独自のチョウが見られなくなっていた。

同地域は、新種として発見され話題を呼んだベニモンカラスジミの産地として知られるが、同種を含め見られなくなった昆虫は多数に上る。桑田さんは「道路開通の影響もあるのか、平地と同じ種類しか見られない。全国的に環境悪化が進んでいるが、風穴もその典型になった」と指摘している。

昆虫・貝・岩石など標本32万点収蔵・展示

公立施設も脱帽



私設博物館を建設する楠さん

秋が楽しみ 私設博物館

松山の楠さん、近く着工

松山市新石手の自然研究

い」と話している。

ものがほとんどで、図鑑で

家・楠博幸さん宅が、長
年収集した昆虫や貝、岩石
などの標本三十二万点を収
蔵・展示する私設博物館が
を同所に建設する。近く着
工、十月完成の予定で、企
画展などを開き随時公開す
る。楠さんは「五十年来の
夢がかなう。展示を見て自
然の豊かさを知ってほし
く。楠さん自身が採集した

標本は昆虫、貝などの海
洋生物が各十五万点、岩石
・化石と植物が各一万点。
県内では愛媛大農学部が約
百十五万点(昆虫)を所蔵
しているが、公開施設の標
本数では県立博物館の約十
六万点、面河山岳博物館の
約四万点などと比べ群を抜
き、三階が資料室で両
階が住居。二階が展示室・
事務室、三階が資料室で両
階合わせ百三十五平方尺。
運営資金が乏しく常時公開

は難しいが「石手川の歴史
を語る石ころ展」「世界の
カプトムシ展」など六回
程度の企画展を開く計画
で、在宅時には観覧に心じ
たい考え。

楠さんが本格的収集を始
めたのは、学芸員や館長補
佐などを務めた県立博物館
を昭和五十五年に退職して
から。自宅を南日本自然史
研究所とし、南方から日本
に来た昆虫のルーツや、松
山平野の昆虫の変遷などを
独力で研究している。資料
は自宅裏の別棟に収蔵して
いたが手狭になり「元気な
うちに、きちんと整理・保
管できる施設がほしかった」。道路計画に伴って自
宅の建て替えが必要になっ
たこともあり、建設を思い
立った。

子供のころから昆虫好き
だった楠さんが、博物館建
設を夢見たのは終戦直後。
佐世保の海軍工廠(しょうじ
)に勤務し、終戦で松山に帰
省。原爆で惨たんたる状態
の広島や焼け野原の松山を
見た後、石鎚山で出会った
アナニマアラ(ニョブ)一

種)の大群の美しさに感激、
「生物は平和の象徴だ」と
直感したから。
半世紀を経過して念願を
実現する楠さんは「乱開
発で絶滅する種がある。
地球は人間だけのものでは
ない。特に子供たちに
見てもらい自然の大切さ
を知ってほしい」としてい
る。

ガムシ鬼つけた



野村で相次ぎ2匹

愛媛新聞
4.9.8.14

東宇和郡野村町前石の無
職佐竹広数さん(69)が先
ろ、県内で急激に減少して
いる水生昆虫・ガムシを高
町内で見つけた。町内では
ほぼ同時期にもう一個体見
つかっており「また豊かな
自然が残っている証拠」と
関係者を喜ばせている。
ガムシは、ガムシ科の水
生昆虫で、ゲンゴロウに似
た体型。全長約四センチに達す
る大型昆虫だが、最近では
水質汚染などの環境悪化の
ため、県内ではめったに見
られなくなっていた。
佐竹さんが近所の田の排
水をしていたところ、水た
まりにいた見慣れない昆虫
を発見。町役場に持ち込ん
で調べた結果、ガムシであ
ることが判明した。役場
はその後、もう一個体ガム
シが持ち込まれた。
水生昆虫に詳しい松山淡
水ベントス研究所の桑田一
男所長は「山手の自然が残
っている池でたまに見つか
る。県内では、もう平野部
の池ではほとんど見られな
くなった」と話している。

重信町の自然観察

黒滝：楠先生にいただいた資料を握りしめて、まずは黒滝へ行ってみた。舗装されていない山道を歩くのは気持ちがいい。植物の種類が豊富ですと聞いていたが私の知っているのは柿の木と松の木くらいなもの、他は皆同じに見える。足元には見慣れたクズが茂っているし、見渡すところ普通の景色だ。私の（一般教養の）貧しさを再認識する。でも、今日は資料もあることだしとあって気を取り直し、まずはハルニレをさがす。特徴のひとつは「二重きょ歯」つまり葉の周辺のギザギザが二重（複式）になっていることだ。「ニジュウキョシ」「ニジュウキョシ」とつぶやきながら葉を見ているうちにそれらしい葉を見つける。うん、うん、確かに葉のギザギザが二重になっている。見上げると、さわやかな感じのする淡い緑色の葉が空をおおっている。皮の裂け目を触ってみるとヌルヌルしている。ハルニレとは思えけれどもいま一つ自信がない。来年の花の時期に来て確かめることにする。悠長な気持ちに我ながら感心する。帰りかけると、大型のアゲハチョウがひらひら飛んで来た。羽が青緑色に輝いている。ミヤマカラスアゲハだ。私がいても気にするふうもなく、水の流れのそばに羽を休め水を飲みはじめた。たたずんでそれを眺めていると、私も景色の一部になっていくような気がした。



かすみの森公園：アキニレを知りたいと思っていると、偶然、重信川の川原にある「かすみの森公園」に、自然林のあることがわかった。何のことはない、白形さんの撮った写真が重信町の町勢要覧に載っているというので、買って読んでいたら、そこに書いてあったのだ。早速行ってみたら立派なアキニレの林があって、うれしかった。やはりカワラケヤキと呼ばれるだけある。ここはアキニレにとって最適の場所だ。この秋に花の咲くのを楽しみにして、仕事の帰り道に時々寄っている。

三か村泉：相変わらずきれいな水。以前来たときに金魚すくいで泳いでいるあのヒブナが一匹いて気になっていたのだけど、今日は見えなかった。周囲のゴミも減っていて「ゴミを捨ててはいけません」の看板が頼もしく見える。龍沢泉にも同じ看板を立てられないかしらと思う。私達にできる範囲で。





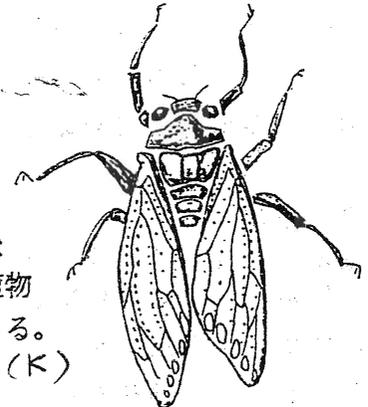
Ⅲ かが峰：6月の終わり頃、人に誘われてⅢが峰に登った。ここでは、多くの樹木に名札がかかっている名前を知るのには便利だ。図鑑を片手に、首が痛くなるほど木々を見上げては、3人でああだこうだ言いながら歩いた。おかげでコナラ、ミズナラ、ブナ、ケヤキ、の見分けがつくようになった。と思っていたのに平地に降りてきたとたん、そのあたりの庭木までがブナやミズナラに見えてきてわけが分からなくなった。

重信町はエノキの産地だと書いてあった。エノキだけでも、オオムラサキ、ゴマダラチョウ、ヒオドシチョウ、テングチョウなどの蝶類がつくらしい。どんな木だろう？「エノキ、エノキ・・・」と思っていたら、国道11号線の街路樹に植えてあった。信号待ちで止まっている時に、ひょいと外を見たら、目の前の木に「エノキ」の名札がかかっていたのだ。驚いた。後日 緑化センターに行って詳しく見てきた。樹皮はゾウの肌のように、葉は基部が左右不揃い、きょ歯は先半分だけ、知ってみると確かに重信町内いたるところにはえている。空き地にも、学校にも、神社にも、かすみの森公園にも立派なエノキがあった。

もう一つ気になる木がある。「キハダ」だ。アルカロイドという成分を含むので、ミヤマカラスアゲハなど5~6種類のアガハチョウがつくらしい。薬用植物でもある。黒滝では見つけることができなかった。わが家では、楠先生にいただいた苗木が20センチ位になっているが「キハダ」としてのイメージはまだない。緑化センターで見たキハダは柔らかな緑色の葉をしており、なによりも樹皮の内側が見事な黄色だった。

前回の井戸端便りで紹介した蝶の好む花、「三尺バーベナ」と「ブツリア」をわが家の庭に植えてみた。すると花の時期には何種類かの蝶を見ることができた。

黒滝で出会ったサカハチチョウや Ⅲが峰で見たおしゃれな蝶アサギマダラ、そして葉緑素を持たないロウ細工のような植物ギンリョウソウなど、歩けば歩くほどこの土地の豊かさを感じる。



(K)

「重信町の分別収集について」

去る6月17日に重信町廃棄物処理検討委員会が開かれました。

今回は、主に不燃物の分別収集について意見を述べ合いました。

去年8月に発足したこの委員会でも、当初からゴミの再資源化の早期開始を望む声は上っていました。去年12月に町指定ゴミ袋を導入してゴミの分別及び減量化を推し進める際にも、不燃物分別収集を同時に徹底した方が良いという意見がでました。

しかし、町民にゴミに対する意識を高めてもらう事が最優先で、できるだけ混乱を避ける為、まず半透明のゴミ袋を導入し、可燃ゴミを見直す事から始めた方がよいという事になったのです。

8月の広報に、ゴミについてのアンケート結果が載せてありました。

この結果を見る限りでは、分別収集に町民の協力は得られると考えられます。

また、8月から半年間、横河原と田窪団地を分別収集モデル地区として、分別収集のあり方を検討していくことになっています。

今のところ検討課題は、

* 不燃物の分け方や出し方

* 粗大ゴミとの関連性

* 日時

* 違反ゴミの問題

* 袋に関する問題

などですが、モデル事業開始後は新たな課題が増える事でしょう。

委員会では、モデル地区の報告を受けながら不燃物分別収集の課題を話し合い、町内実施に向け、さらに細かな問題点について意見を出し合うということまでは決めています。

容器包装リサイクル法が制定され、ペットボトルやガラス瓶を自治体が分別収集し、容器・飲料メーカーに再商品化するよう義務づけられましたが、東京都と政令指定都市の清掃事業部門でつくられている13大都市清掃事業協議会では、

「自治体の負担が大き過ぎる」と国に対してこの制定の見直しを求めめています。国への要望は、自治体と事業者の責任分担の見直しと、国の補助金を要求する2点です。この補助金について大阪市は、自治体の経費増に補助金をとというのは、税金を使う意味では同じでありゴミ発生抑制という点からいえば、負担を商品価格に含ませるべきだと指摘しています。

重信町もゴミ処理には、多くの町税を使っています。町が目指すゴミの再資源化の中で最も費用がかかるのは、これから取り組もうとしている分別収集や中間処理でしょう。地球環境の保全と町税の有効使用を熟慮し、今後重信町はリサイクル法の枠組みの中でどう対応していくべきかを、町議会でしっかり議論してもらいたいと思います。

R.D.

ごみの再資源化 有望事業とみた

大手鉄鋼各社が、廃プラスチックの高炉原料化、ごみの固形燃料化、ペットボトルの再資源化などの分野で、ごみの再資源化事業に続々参入している。地球温暖化防止や産業廃棄物問題といった環境に対する関心が高まる中、環境ビジネスを将来の有望分野とみて本腰を入れ始めた。

鉄鋼大手 相次ぎ参入

NKKは昨年十月、京浜製鉄所（川崎市）内に約十五億円をかけて廃プラスチック高炉原料化設備を完成した。フィルクム系プラスチックは熔融し、固形プラスチックは破砕し、それぞれ造粒する。これを高炉の羽口から吹き込むと、原料のコークスの代わりに還元剤として利用できる。処理能力は年間三万トで、今年中にはフル操業体制になりそ

うだという。新日本製鉄は今年四月、三井物産などと共同出資で、ペットボトルを再商品化する「西日本ペットボトルリサイクル」（北九州市）を設立した。一九九八年度初めをめどに、年間処理能力四千ト規模の再処理工場を約十五億円かけて建設。山口県から九州、沖縄県を中心に、分別収集されたペットボトルを加工して、織

維製品や容器などの原料として供給する計画だ。川崎製鉄は、ごみの固形燃料化事業に取り組んでいる。伊藤忠商事などと共同で「日本リサイクルマネジメント」（東京）を設立。一般家庭から出る生ごみ、紙、衣類、プラスチックなどを選別・破砕し、乾燥させて固形燃料に成形する。

既に全国数カ所でプラントを稼働させている。ある鉄鋼メーカー幹部は、「まだそんなに利益が出る事業ではないが、ごみビジネスは今後の成長分野。たとえ利益が薄くても、環境問題に真剣に取り組むことは、これからの企業のためだ」と話している。

環境に優しい自動車

ダイハツ・クオレ2位

ダイハツ交通

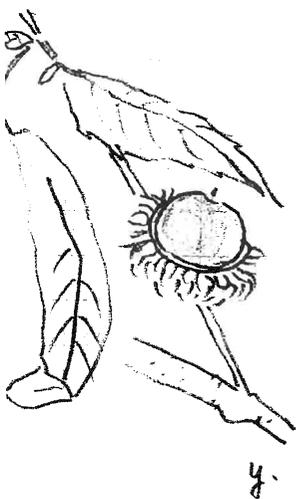
【フランクフルト12日共同】ドイツ交通クラブ（VCD）が十二日発表した一九九七年度の「環境に優しい自動車ランキング」の総合部門で、ダイハツ工業の「クオレGL」が二位、スズキの「スイフト1.0GLS」が三位と日本車が健闘した。一位はオペルの「コ

ルサ・エコー1.0」。六位にはダイハツの「ムーブGLX」が入った。小型車部門では、本田技研工業の「シビック1.5iLS」が一位となったのをはじめ、トヨタ自動車の「カローラ・コンパクト1.4XLi」や三菱自動車工業の「コルト1300G

L」などが十位内にランクされた。メーカー別の評価では、一位アウディ、二位フォルクスワーゲン（VW）、三位メルセデス・ベンツ、四位ボルシェとドイツ勢が上位を占めた。ランキングは二百車種余りを対象に、排ガス対策などをチェックした。同クラブは「全体として自動車メーカーの環境対策はまだ十分」と指摘している。

プラスチック→高炉原料

ペットボトル→繊維製品



会員の“こんなことしています”

★朗読（音声訳）奉仕

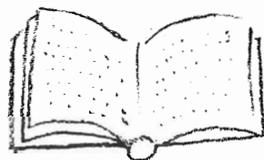
K. O

私と音声訳との出会いは、重信町に転居して知り合った友人宅での穴だらけの新聞からだった。音声訳奉仕の為の切り抜きの穴だと聞き、以前から読書は好きだったので、興味を持ったが、そのまま数年が経ってしまった。

その後、たまたま彼女との話が音声訳のことに及び、毎年秋に県の主催で音声訳奉仕員養成の為の講習会があることを知り、主人と共に申し込み、土曜日の午後十回にわたって講習を受けた。発音、アクセント、表やグラフの読み表し方、テープデッキの操作など一通り講習が終了すると、継続できる人でグループを作り、グループ活動。その後、能力に応じて独り立ちということになる。

録音したテープは、視聴覚障害者福祉センター内のテープライブラリーに帰属する。主人は、男性メンバーが少ないこともあり、とても歓迎されたが、仕事のため継続は無理で、講習後の活動はできなかった。私は二年間グループ活動を続けたが、現在は長期休暇をいただいている。

音声訳と、いわゆる朗読との違いは、聞く人が自分なりの世界を作れるよう、先入観を与えない為に、あまり感情を込めず、「何も足さず、何も引かず」を原則に、とにかく正確に読むことだと言う。久々に緊張感を伴った楽しい時が持てたことが幸せだったし、また、再開できることを楽しみにしている。



☆行って来ました。“四国平成義塾”

四国四県の地方新聞社主催で三年がかりで開催され、その最終回が、6月27日松山会場でありました。常々、ネットワークについて興味があったので何か得たいと思いつけました。どうすれば四国が活気のある土地になれるかを、交通、経済、文化、自然、など色々な視点で考えようという試みのようです。残念ながらネットワークのヒントは得られませんでした。その現在の状態や問題点などはよく解りました。つまり、四県はバラバラに対応しており、もっと話し合う必要があり、市民レベルの議論にならなければ。ということでした。なんだ、それでは、私達が今抱えている問題はそのまま四国の問題であったわけか、と妙に納得はしましたが、さてこれからその方法を考えなければ。そのヒントが欲しくてでかけたので、なんだか振り出しに戻った心境です。(Y)

◇ ◆ 白形さんの個展 in Matuyama ◆ ◇

WATERCOLOR

透明水彩で描かれた鳥や草花は水や光の中にいます。

白形毅史/水彩画展

1997・7・31(日) - 8・5(日)

AM11:00 - PM7:00 Last day PM5:00



白形 毅史 〒791 松山市東長戸4-2-28メゾン安永401 TEL(089)925-3413

Siberian Bluechat
Illustration Tokeshi Shirokita

こんなすてきな案内状をいただいたので、白形さんの世界にであいに行ってきました。いつもは久万町で展覧会をひらいているそうで、一度はそちらにも行ってみたいと思いました。毎年、5月3、4、5日ころだそうです。今度、みんなで行ってみませんか。 Y

§ § § ブツブツ ヒトリゴト § § §

☆ 不燃ゴミのモデル地区になりました ☆ (0)

モデル地区になるにあたって事前に説明会があったときの事、初日には役場の方、区の委員さんたちが勢揃いされている中、分別のやり直しなど、ああでもない、こうでもないにぎやかでした。袋や分け方など、まだまだ改善したほうがいいところも多い様にも思えますが、とにもかくにも、ゴミをひとつでも減らすことですネ。



募集中

- ◆ 新しい企画 …… goodな企画には金一封! はありませんけど、ワクワクするようなこと、提案を待っています。
- ◆ 井戸端だより20号へのアイデア
- ◆ いい話 …… もったいぶらずに教えてください。薄謝あり
- ◆ “こんなことしています”のコーナーへ原稿ください。
- ◆ ブツブツいってストレス解消、§ぶつぶつ§コーナーいつでも開店中。

編集後記

月にむら雲、毎年名月の日は天候に恵まれないのだとか、今年はさらに台風にみまわれ、被害拡大を伝えるニュースに胸が痛みます。さて、井戸端だよりも19号を数えました。ある方が、「どんな会でも雑誌でも、20というのは最初のひとくぎり、大事なものだ。それでやっと一人前。」と言われたのを思い出しています。くらしの学習会も多くの方に支えられてきたことに感謝しています。

担当 E・K・Y・S

会員募集

随時会員を募集しています。 活動会員は 2000円
購読会員は 1000円です。
連絡先 林まで (964-6956)

重信くらしの
学習会